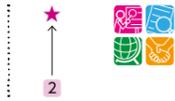


戦略
7

卒業後も積極的に母校とのつながりを持ち続けることで、「國學院久我山」の一員としての共同体意識を深め、在校生の学びに貢献している。



行動計画のストーリー

キャリア教育としての進路指導を見直し各界の卒業生との触れあいの場を大切にしたい。同時に同窓会との関係性も深め、とりわけ國學院大學の卒業生については、より強固な結びつきを築いていきたい。結果として本校の卒業生としての矜持が強固なものとなることを期待したい。

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	現キャリア教育プログラムの実施時期・対象・意図の再検証		キャリア教育の新プログラムの部分的実施と検証	
		國學院大學進学者ネットワーク構築（部分的実施による検証）		卒業生ネットワークの再構築化
同窓会との連携強化・同窓会内容のリニューアル・同窓会告知方法の改良（公式Facebook立ち上げを含む）				

評価指標

- 新年同窓会参加者数 約250名 / ● 卒業生訪問者数未集計（文化祭など） / ● 公式Facebookなし

<ul style="list-style-type: none"> 同窓会に新たな卒業生を迎え入れるために、旧態の進行内容に加えて「今の学校の様子」を伝えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 現キャリア教育プログラムの実施時期・対象・意図の再検証を始めている 公式Facebook立ち上げ、継続のための環境整備ができています 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の検討したことを踏まえて、キャリア教育の新プログラム計画に着手している 公式Facebookを立ち上げている 同窓会参加人数が計画当初比1.2倍になっている 同窓会で「20歳を祝う会」を実施するための準備に着手できている 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の新プログラムの部分的実施ができている 公式Facebookの定期的な更新ができている 公式Facebookへのいいね!、フォロワーが各600件になっている 同窓会で「20歳を祝う会」の実施ができている キャリアデザインが明らかになったという生徒向けアンケートの結果が得られている 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の新プログラムの検証ができている 公式Facebookを使い卒業生と学校が有機的につながることができている 同窓会参加者年齢が計画当初より偏りがない状態である
--	---	--	--	---

最終評価指標

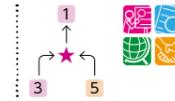
- 新年同窓会参加者倍増 / ● 卒業生訪問者数増加（文化祭など） / ● 公式Facebookへのいいね!、フォロワー数各1,000件

達成後の姿

- ・生徒が卒業までにキャリアプランを形成し、卒業後は積極的に本校に貢献している。
- ・卒業生ネットワークの形成が進み、同窓会への参加が増えている。

戦略
2

「学び続ける力・生き抜く力」を養い、日本をより深く理解し世界に視野を広げることのできる有用な人間としての素地ができている。



行動計画のストーリー

有機的につながる行事作りのため、生徒の実行委員会を組織して教員とともに協働することを目指す。また男女の特性を生かした伝統文化に触れる行事とともに国際交流プログラムをも積極的に取り入れ、自国の理解に根ざした世界発信を目指したい。こうした行事の一貫化は充足感をより豊かなものにするに違いない。

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
男女学年縦断行事の現プログラム精査・体系図構築		新男女学年縦断行事の部分的実施と検証（学年別行事との差別化）		新男女学年縦断行事の拡充
国際文化交流（CC:カルチュラルコミュニケーション）クラス<仮称>編成準備完了	国際文化交流（CC:カルチュラルコミュニケーション）クラス<仮称>編成スタート		国際文化交流（CC:カルチュラルコミュニケーション）クラス<仮称>の教育内容充実化	
国際交流プログラム・日本文化体験プログラムの更なる充実化（大学のリソースを活用した教育活動を含む）				

評価指標

- 語学研修 夏1回 / ● グローバル化に向けて4技能向上のための英語科教員研修数 数件

<ul style="list-style-type: none"> 男女学年縦断行事の現プログラムの見直し項目が明確になっている 国際交流に関する現プログラムの検証ができている 国際文化交流（CC:カルチュラルコミュニケーション）クラス<仮称>編成がスタートできている 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の良きものを土台としながら、検討した見直し項目を改善し、体系化した行事づくりを始めている 国際文化交流（CC:カルチュラルコミュニケーション）クラス<仮称>の始動年に振り返った内容を2期生に活かすことができている 	<ul style="list-style-type: none"> 検討した行事を部分的に実行できている 国際文化交流（CC:カルチュラルコミュニケーション）クラス<仮称>の始動年に振り返った内容を2期生に活かすことができている 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年実行した行事を検討し、拡充に向けての準備ができている 女子特別講座や男子武道大会などの会場、講師の選定ができている 	<ul style="list-style-type: none"> 男女学年縦断行事の拡充ができている 始動した国際文化交流（CC:カルチュラルコミュニケーション）クラス<仮称>の進路指導プランが確立されている
--	---	---	--	--

最終評価指標

- 語学研修の回数の増加 / ● 高校3年生1学期に修学論文に代わる修学旅行のレポート作成をする。（事前事後学習含む）<日本をより深く理解したか、視野が世界に向けて広がっているか、について図る指標>
- 国際文化交流（CC:カルチュラルコミュニケーション）クラス<仮称>の1期生が（この時期には後期課程に在学中）、グローバル化社会を見据えた将来構想を抱き始めていることが分かる

達成後の姿

- ・6カ年の体系化された学年別行事と共に、学年や男女の「枠」を超えた学びの機会があることで、生徒が「学び続ける力・生き抜く力」を養うことができている。
- ・日本の文化を体得した上で、世界の多様な価値観を認めることのできる生徒を育成する土台づくりができている。

國學院大學
北海道短期大学部
國學院高等学校
國學院大學久我山
幼稚園
國學院大學附属
幼稚園

戦略

3

男女別学体制のもとで、中高が連携した活動や学びを通し、生徒が主体的かつ協調的な姿勢を体得している。

2
↑
★
↑
4



行動計画のストーリー

生徒の主体的な活動の場である生徒会を中高が連携した組織と改める。また部活動も在学中のみならず卒業後も趣味として続けられるようなクラブの新設も視野に検討する。こうした中高一貫体制の整備は、学園全体の一体感を強めることにつながるものと期待される。



評価指標

● 現生徒会組織図 ● 全国大会の応援は指定学年が行っている ● 文化部以外は中高一貫部活動が少ない

<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部の構成の見直しを始めている 委員会活動の中高一貫化するための環境づくりを始めている 部活動を中高一貫化する意図を全構成員(教職員)で共有ができています 	<ul style="list-style-type: none"> 翌年からの中高一貫化に向けて生徒会、委員会活動の年間スケジュールの見立てができています 中高一貫体制での部活動の組織図を作成ができています(強化5クラブを除く) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、委員会活動の中高一貫化を開始ができています 動員をかせずに全国大会の応援者を募る取り組みを始めている 新組織図においての部活動が開始ができています 	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫体制の生徒会、委員会活動において、旧体制と異なる発案が生徒から上がってきています 中高一貫部活動における中高合同活動内容を検討しています 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の応援呼びかけなどを含め、生徒会活動の活性化を図ることができています 検討した内容で中高一貫体制を活かした部活動を行い、生徒が学ぶことができる幅が広がっています
---	---	---	---	--

最終評価指標

● 新生徒会組織図 ● 全国大会の応援に自発的に生徒が行っている ● 部活動の全中高一貫化(強化5クラブを除く)

● 生徒からの発案数の増加(主体的かつ対話的に学ぶことのできた指標として)

達成後の姿

・生徒が主体的かつ対話的に学ぶ場面が計画当初より増えている。
・生徒たちの「中高一貫体制」の整備が行われ、在校生の一体感の向上と共に学園全体の一体感が向上し始めている。

※強化5クラブ:ラグビー部・野球部・サッカー部・バスケットボール部・陸上部

戦略

4

中高6カ年を通した縦断的な教育活動ができる組織体制になっている。

3
↑
★
←5
↑
6



行動計画のストーリー

中高の縦断的かつ継続的な教育体制の早期実現を目指して従前の学年主任を廃止し、2学年ごとの括りによる前期(中1・中2)、中期(中3・高1)、後期(高2・高3)の課程制を強化する。また海外姉妹校の実現に向けて近々にその候補を絞り込みたい。さらに強化5クラブのあり方については抜本的に見直し、全国レベルでのさらなる活躍を実現する。加えてICT教育の要請にこたえつつ情報リテラシーの向上を目指した教育内容の充実を図る。こうした教学体制の見直しは随時ホームページにて発信していくものとする。



評価指標

● 学年主任 12名 ● 第一志望、目的意識の高い生徒の獲得の伸び悩み

<ul style="list-style-type: none"> 現課程制・クラス編成における改善項目を明確にできている 現市場調査の利点欠点を明確にし、具体的に改良案のリストアップができています 強化5クラブに関する改善項目を明確にできている 	<ul style="list-style-type: none"> 新体制の構想案作成を始めている 情報リテラシー教育に関して、6年間の段階的教育内容を検討ができています 新市場調査の検討が開始がされている 学校HPのリニューアル項目、生徒活動の新発信方法を検討して改良し始めている 2020年問題とアドミッション・ポリシーを踏まえ入試出題内容を検討ができています 強化5クラブに関する検討した項目の改善案の精査ができています 	<ul style="list-style-type: none"> 新体制の構想案の最終確認、内部・外部への発信のための準備ができています 次年度より6年間の体系化された情報リテラシー教育ができる準備ができています 新市場調査の実施ができています 新入試出題内容で入試実施ができています 強化5クラブの指導体制に変化をつくることできています 	<ul style="list-style-type: none"> 新体制の導入ができています 検討した情報リテラシー教育の実施ができています 強化5クラブの指導体制への良い変化を継続化することができています (入試日程を変更する場合は)本校の出願動向の見立てをして、変更意図を明確化、構成員の情報共有が図られている 広報媒体の結果検証ができています 	<ul style="list-style-type: none"> 海外姉妹校候補のリサーチができています 実施した情報リテラシー教育の検証ができています 平成31年度入試からの入試内容の変更に伴い、在校生と内容変更後に入学した生徒との比較・検証を始めている(入試日程を変更した場合はその検証も含む) 全国レベルでの活躍の実現がより図られている
---	--	--	---	---

最終評価指標

● 課程主任体制6名 ● 強化5クラブが全国で活躍している ● 学校HPアクセス倍増 ● 第一志望、目的意識の高い生徒の獲得数の増加

達成後の姿

・学年を超えた重層的な学びがある体制の土台づくりができています。
・効率的な市場調査をもとにして、効果的な広報活動と理想的な募集活動ができています。
・教育内容の質の向上のために適宜研究をして、外部に向けての計画的な発信につなげ、目的意識の高い生徒の確保ができています。
・中高6カ年を通した縦断的な教育活動がよりスムーズに行えるように、強化5クラブの位置づけがより明確化されており、強化5クラブの活躍により学園の知名度も高まっている。

國學院大學

國學院大學
北海道短期大学部

國學院高等學校

國學院大學久我山
中学・高等學校

國學院大學附属
幼稚園

國學院幼稚園

戦略 5

施設管理のみならず、あらゆる教育環境について常に検証し、地域連携を含め適正化を図っている。



行動計画のストーリー

校舎の安全性について再検証するとともにサニタリースペースなどの改善を最優先する。また第3グラウンドについては一般開放を視野に人工芝化に着手したい。さらに都道放射5号線の開通に伴い、バス会社と提携してJR駅からの便宜を図り、アクセスを良くすることで志願者の増加につなげたい。また屋上に夜間も目立つ看板を設置する。こうした「居心地よさ」の実現は、今まで以上に「開かれた学園」の姿を創造することにつながるだろう。

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
第3グラウンドの人工芝施設化	第3グラウンドの外部少年ラグビー・サッカー学校への無料貸出開始	少年ラグビー・サッカー学校との本校生徒との交流実施		
各校舎の安全性の再検証		各校舎の安全性向上に向けた工事の実施		
女子生徒用サニタリースペースの整備			全館サニタリースペースの向上完了	
学習環境の向上のための改善項目リストアップ		学習環境向上のための工事の実施		
放射5号線に伴う通学手段の検討(バス会社との提携など)				
	校舎北側側面の校名看板設置			
		キャンパス建築計画検討開始		

評価指標

- ラグビー部の強化練習は高校グラウンド(人工芝)で行なっている
- 黒板が旧式で使いづらい
- 女子トイレ 洋式79%・和式21%、男子トイレ 洋式43%・和式57%

<ul style="list-style-type: none"> 第3グラウンドの人工芝施設化ができています 女子生徒用サニタリースペースの改善項目が明確になっている 	<ul style="list-style-type: none"> 各校舎の安全性が再検証され、建物毎の中期ビジョンが明確になっている 全ての女子トイレにウォシュレットが設置されている 	<ul style="list-style-type: none"> 校名看板の設置により広告効果の向上が図られている 第3グラウンドの無料貸出が行なわれている バス会社との提携により主要駅からの本校へのアクセスが便利になっている 	<ul style="list-style-type: none"> キャンパス建築計画を含むキャンパスプランが策定されている 	<ul style="list-style-type: none"> 本館外付け5階までのエレベーター設置の検討ができています 全館サニタリースペースの向上が図られている 地元近隣の少年ラグビー、サッカー学校との交流が深まっている
---	---	--	--	--

最終評価指標

- ラグビー部はじめ、多くの部が全国大会に継続して出場している
- 施設の無料開放により、近隣地域との連携が深まっている
- 学校見学アンケートで清潔感が保たれていることが分かる(古い校舎ながらも清潔感や利便性をはじめ教育施設の付加価値が向上している)
- 女子、男子共にトイレ洋式化100%

達成後の姿

- ・看板部活動であるラグビー部の練習環境が強化されている。
- ・本校がラグビー・サッカー少年から憧れる存在になっている。
- ・地域少年サッカーおよびラグビースクールとの交流を深めて、本校ラグビー部、サッカー部のジュニア層を開拓する。
- ・生徒が居心地の良さを感じ、自ら学ぶ力を育みやすい環境をつくることできている。
- ・女子校舎のイメージ向上。
- ・キャンパスプラン原案完了。

戦略 6

建学の精神に立脚しつつ、多様な価値観を認めることで、グローバルな人材育成を目指し、構成員(教職員)全員が新たな「國學院久我山」を創造する意識を持って、学園の更なる発展を目指している。



行動計画のストーリー

私学としての建学の精神に立脚した上で新たな価値を創造していくため、構成員全員が学校法人國學院大學の成り立ちや歴史、ひいてはその存在意義について大学関係者の協力を得ながらその理解に努めたい。次に各校務分掌がさらに有機的に運用されるよう検証を重ね、平成32年度までには段階的に教職員ネットワークをより充実させ、構成員相互の情報のよりよい共有に役立てていくようにする。加えて、組織の若返りと活性化を図るために「早期退職制度」の改正を速やかに実現するものとする。こうした計画の実現は、構成員個々のやりがい高め、よりよい労働環境を実現することにつながるに違いない。

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
現校務分掌においての問題の明確化・新校務分掌の実施準備完了(教職員が互いに多様な価値観を認め合える環境の構築に向けて)		新校務分掌の実施・検証(「建学の精神」を前提に)		
新人・中堅・上位層それぞれの教職員の研修体制構想作成完了(國學院の理解を含む)、現組織体制による小部会の実施		新人・中堅・上位層それぞれの教職員の研修の実施・検証(教員・科目・学年を横断した小部会/職員・課を越えた小部会)		新研修の実施・検証(教職員の小部会の実施)
労働条件の向上のための改善項目検討完了		検討項目の部分的変更実施		検討項目の実施領域拡大
	教職員ネットワークの充実化・法人個人アドレスの設定		教職員の業務効率化の検討・実施・検証	
早期退職制度の改正				
中高大の連携更なる強化検討				

評価指標

- 全体研修回数 1~2回
- 研修時間 週約4時間
- 専任教職員の年齢比率 【40歳以下】全体35.29%(136名中48名)、教員34.86%(109名中38名)、職員37.03%(27名中10名)
- 高大連携イベント件数 3件

<ul style="list-style-type: none"> 現校務分掌においての問題の明確化ができています 新人・中堅・上位層それぞれに必要な研修項目のリストアップができています 小部会の実施ができています 早期退職制度を改正施行できています。また、この制度を含め福利厚生に関する説明を改めて行ない、構成員(教職員)が周知している状況にある 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の新校務分掌の実施に向けての準備が完了しています 次年度より実施の新人・中堅・上位層に向けての研修の体系化ができています 労働条件向上のための改善項目を明確にしています 法人個人アドレス設定の準備ができています 現在の高大連携イベントの問題点を明確にし、新しいイベント案をリストアップできています 	<ul style="list-style-type: none"> 新校務分掌の実施ができています 検討した体制で研修を実施できています 教員は科目学年を横断した小部会を、職員は課を越えた小部会が実施できています 教職員ネットワークの充実が図られています 新しい高大連携事業の部分的実施ができています 	<ul style="list-style-type: none"> 新校務分掌の検証を始めています 検討した体制で研修を継続できています。また、研修をよりよくするための検証ができています 労働条件の改善項目に対する満足度が上がっています 教職員の業務効率化に向けての項目をリストアップできています 	<ul style="list-style-type: none"> 新校務分掌の検証が適宜できています 必要に応じて実施している研修の見直しまたは拡充ができています 教職員の小部会が実施できています 労働条件改善のための検討項目の実施領域を拡大できています 検討した業務効率化に向けての計画を実行できています 高大連携事業の拡充ができています
---	---	--	---	--

最終評価指標

- 全体研修回数3回
- 研修時間:年間平均して週6~8時間程<労働条件の改善を計る指標>
- 専任教職員の年齢比率:平均43歳、40歳以下教員38% / ● 高大連携事業件数5~6件

達成後の姿

- ・教職員が目的達成のために、建学の精神に立脚しながら常に新しい価値を見出す努力をし、その働きかけが教職員同士でできている。
- ・グローバル人材育成のためには生徒達が多様な価値観を認め合える環境づくりが大切なことと同じように、その人材育成に携わる教職員の職場も互いに多様な価値観を認め合える環境になっている。
- ・活力ある教職員の組織の土台作りができています。
- ・教員の教育活動時間の拡大に向けての体制づくりに着手している。
- ・教職員の構成年齢の偏りが縮小されている。